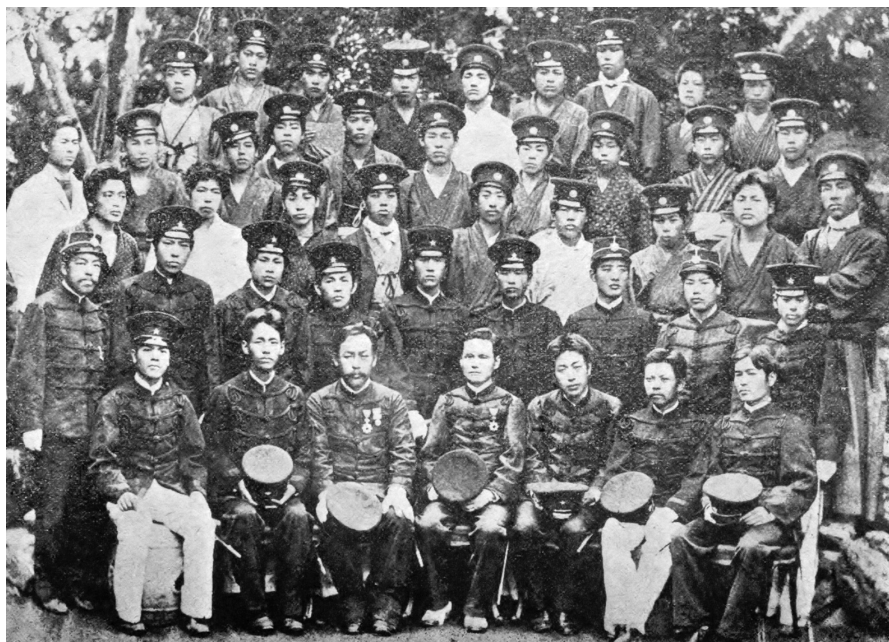


## 日本獣医生命科学大学 —130年追憶の抄—

池本 卯典<sup>1</sup>

日本獣医生命科学大学は、日本最古の私立獣医学校として創立され、130年をここ武蔵野の学舎で迎え、平成23年5月10日に130周年宣言を、9月18日に常陸宮殿下・同妃殿下のご臨席を賜り、記念式典を終えることができました。顧みますと、明治14(1881)年に東京小石川護国寺境内の一隅を借りて創立された私立獣医学校は、東京大学農学部の前身である農事修学場(後の駒場農学校)獣医学科に遅れること僅か4年。私立獣医学校は9名の陸軍獣医官が田沢直孝(21歳2ヶ月)を総代に、荒井義通獣医監を校長に迎え、青雲の気概に満ちた17名の生徒を集めて開学しました。



開校当時の教師と生徒

IKEMOTO Shigenori : 130 Anniversary Memorial of Nippon Veterinary and Life Science University

1. 日本獣医生命科学大学学長 〒180-8602 東京都武蔵野市境南町1-7-1

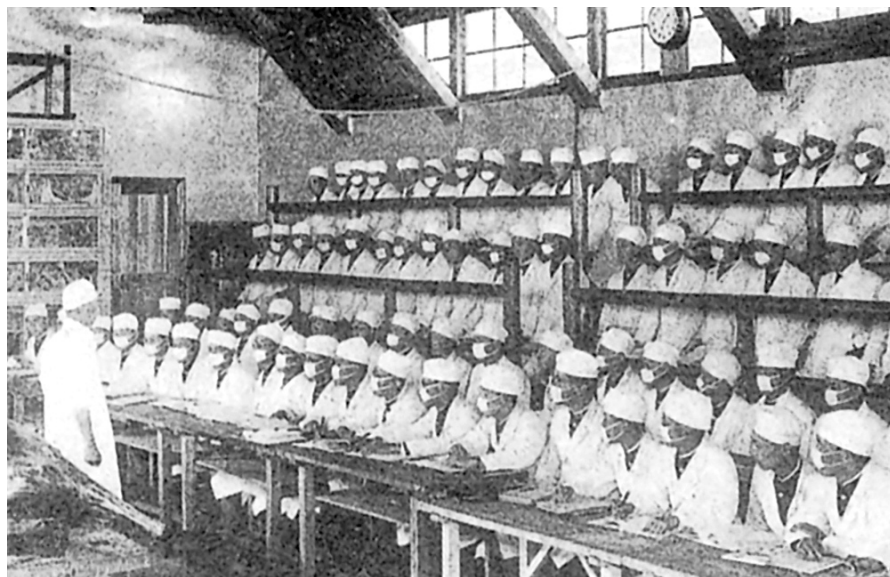
(2011年10月30日受付)

以来、1世紀余、コペルニクスの回転と躍動を続けた日本の近代獣医学教育史に足跡を留め、時代の要請に対応して増設された獣医保健看護学科、動物科学科、食品科学科の卒業生及び大学院の修了者を含め16,000余名の校友を送り出して社会貢献を続けています。

その間、私立獣医学校、特別認可東京獣医学校、日本獣医学校、日本高等獣医学校、日本獣医畜産専門学校、日本獣医畜産大学、日本獣医生命科学大学へと進化と変遷を重ねた道程には、2度の休校、畜産学科の学生募集中止、1952年には学校法人日本医科大学と合併して命脈を保ちました。なお、宮城県の小野田町、東京都郊外の多摩ニュータウン、青梅市などへの移転計画、福岡県にある都築学園



私立日本獣医学校時代の正門



昭和13年頃の実習講義風景



昭和27年頃の実習風景

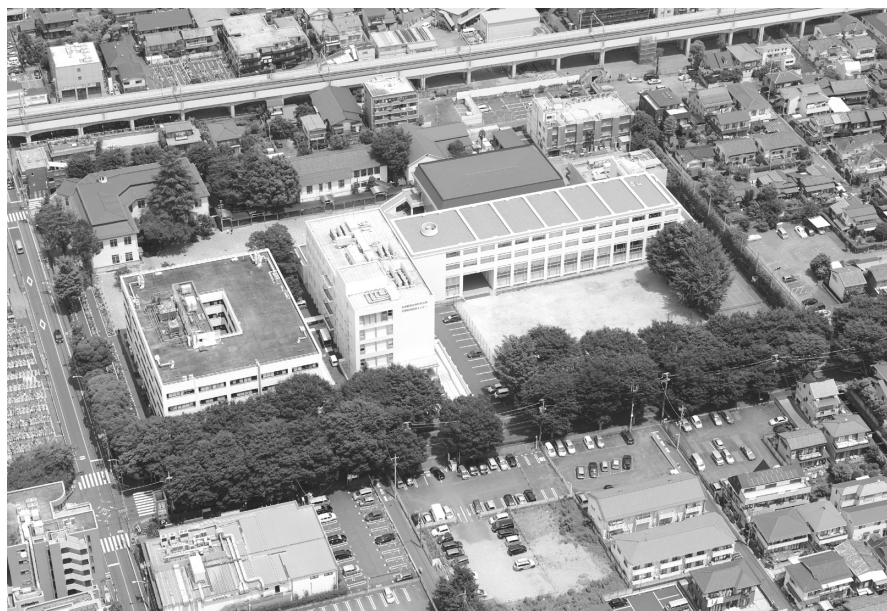
への移管問題など激震にさらされながらも、それを巧みにかわし、迷い無き航路を探り当て今日に至っております。その暗夜航路の羅針盤は、常に学是《敬讓相和》・到達目標《愛と科学の聖業を培う》を旨として、学府の発展に勤めました。

大学の発展は、学生と教員の質の保障、教育環境の整備、財政の確保が相俟って未来があるといえましょう。たとえ暗く厳しい現実であっても、静穏な教育環境、教職員と若い学生達の歓声に溢れたキャンパスが大学人の夢です。華美ではなくても高等教育機関に相応しい大学としての整備に心掛け、法人の理解を得て動物医療センター、教育棟、体育施設、厚生施設の新設、学内IT施設の整備、富士アニマルファームの再生、旧学舎のリニューアルなどの目的は半ば達成しました。しかし、21世紀に相応しく国際化に適った学府の建設に向かい邁進しなければなりません。ある時は大胆に、ある時は慎重に改革を求道し、その達成には、全学の和、同窓諸兄のパワーとリソースこそ最大のエネルギーと信じています。

3月11日午後2時46分、本学では大学院学位授与式の最中でした。突如の激震はM9の東日本を襲った大地震と大津波、加えて福島原発崩壊による放射性物質の飛散は広島原爆の168倍。この悲劇に対応し我々に何が出来るか、《微力だが無力ではない》をモットーに、宮城県で被災動物救護を続け、福島県南相馬市の危険区域にある牧場で被災した牛を対象に、9月13日より除染研究を開始しました。

さらに、台風12号が9月4日から数日間にわたり、畿南・四国・中国地方を襲った記録的な豪雨と山津波(深層崩壊)は、100人を超える犠牲者をはじめ平成最大といわれる台風被害は家屋、道路、交通機関、農作物などに及びました。この度重なる巨大な自然災害は経済不況に拍車をかけ、大学経営も例外ではありません。しかし、ここが正念場、手を相携えてこの難事に対決する覚悟です。

近年の獣医学はまさに教育維新、参加型臨床実習、獣医学教育の普遍化を狙ったCBTの実施、新カリキュラムに拠る獣医学教育の刷新、押し寄せる国際化への対応など、医学教育型に傾斜を強めています。しかし、予算は依然として従来通りの農学教育型、それでも自律設計の可能な私立5大学は、今のところ国公立大学よりは自由度の幅は広いでしょう。いずれにしても、未来を見据えた獣医学教育を実践することにより、獣医療の高度化、獣医師のステイタス向上に愚公移山の思いで歩み続けたいと考えているところです。



本校周辺航空写真(平成3年7月25日)